

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	持続可能な農業生産・消費における都市と農村をつなぐ流通システムに関する研究
Title(English)	
著者(和文)	渡邊春菜
Author(English)	Haruna Watanabe
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12785号, 授与年月日:2024年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:真田 純子,斎尾 直子,坂村 圭,真野 洋介,那須 聖
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12785号, Conferred date:2024/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	土木・環境工学 都市・環境学	系 コース	申請学位 (専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 (工学)	審査員主査： Chief Examiner	真田純子
学生氏名： Student's Name	渡邊春菜					

要旨 (和文 2000 字程度)

Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は「持続可能な農業生産・消費における都市と農村をつなぐ流通システムに関する研究」と題し、8章で構成されている。序章では、良い農村風景の保全・創出には、農業が土地ごとの環境的文脈を尊重し、経済的にも持続可能な形であることが不可欠だが、現状の社会システム、特に風景保全制度や農村政策は、環境と経済の持続可能性を同時に達成できるように、農業を方向づけるものになっていないこと、また日本の効率化を志向する農業政策や大量生産、大量消費を支える流通システムが、農村の疲弊、過疎化を生んできたことから、健全な農村環境のためには流通システムに注目する必要があることを説明した。そして、大量生産・流通システムに対抗する存在として登場したオルタナティブ流通システムと、そのなかでも都市と農村をつなぐことのできる広域オルタナティブ流通システムを取り上げ、そのあり方、それを可能とする社会に求められることを明らかにすることを目的とした。

第1章「関連研究における位置づけと捉え方」では、国内オルタナティブ流通システムの全体像を把握するための事例収集・分析方法を欧米の関連研究から検討した。事例収集にあたっては、流通形態がオルタナティブであるかだけでなく、運営主体の動機が重要であること、実態分析には経済的視点を加える必要があることがわかった。

第2章「持続可能な農業推進の観点から見た国内事例の実態と全体像」では、国内事例を収集し、経済的実態と、類型ごとの主体間関係分析を行った。広域オルタナティブ流通システムは、国内の14類型のうち、仲介主体が運営する個人向け宅配などのサービス、またはオンラインプラットフォームに分類され、消費者が価値決定の中心になる後者のタイプは、価値共有ネットワークとなりにくいことがわかった。前者のタイプは、価値共有がされやすく、環境や風景に資する農業を取り入れる可能性があることを明らかにし、そのうえで、それらのタイプのほとんどが株式会社であることから、オルタナティブな動機・理念を保てるか、仲介者がいかに農産物の価値を決め、生産者、消費者と共有できるかが課題になると考察された。

第3章「事業継続・拡大のための考え方とシステムの対応」では、広域オルタナティブ流通システムの形態を持つ3事例を取り上げ、それらを事業規模と環境や風景に資する農業の観点から比較分析し、環境負荷低減や新規就農者支援等を事業として行うことの難しさを明らかにした。またこの結果から、消費者の歩み寄りが必要で、そのためには限定的な消費者を対象とした学びの場の提供に限らず、食料供給を通じた主体間の相互理解、消費者の行動変容を促していくことの重要性が考察された。

第4章「理念に基づくシステムの具現化」では、環境に負荷をかけない農法でつくられた農産物を新規就農者から仕入れ、さらには消費者の行動変容を含めて流通の仕組みづくりを目指している「株式会社坂ノ途中」を対象にし、創業者が事業を進めていくなかで「100年先も続く農業を。」という理念を形成したこと、その理念を体現するために、支えたい生産者像を考慮した取扱基準や仕入れ方法、選べない不便さを楽しみに変える野菜セットの設計、非効率な仕入れ・販売を効率化させるITシステム開発・運用として具現化していることを明らかにした。

第5章「生産者と農業の特徴」では、「坂ノ途中」の流通システムが効果を発揮しているのかを確認するため、提携生産者の特徴と取り組みの特徴を、環境や風景に資する農業の観点から調査、分析した。生産者は平均45歳と若く、8割が新規就農者であること、多くが家族経営規模の農業を目指し、未来志向で自律につながる取り組みを地域で行っていることなど、「新しい小農層」とも言える人たちであることが明らかになり、「坂ノ途中」の理念や流通の仕組みが、地域の自立に貢献する生産者を支えていることを示した。

第6章「消費者の特徴と意識・消費行動」では、「坂ノ途中」が消費者と価値共有を行なっているのか、消費者の意識や行動を変容出来ているのかを明らかにするため、「坂ノ途中」からの情報発信と消費者の行動の変化を分析した。その結果、「坂ノ途中」は生産者を支える「野菜セット」という

仕組みを「季節を楽しむ」という消費スタイルに翻訳して発信し、受け取った消費者は、その情報や野菜セットの消費という実践を通して環境意識や行動を変化させていることが明らかになった。

第7章「総括と結論」では、これまでの検討を総括したうえで、流通事業者が食料供給という本業のあり方を通じて消費者の行動変容を促すこと、生産者、消費者との相互作用によって互いの歩み寄りを促すことで流通事業者が経済的にも持続可能となり、農村の環境や風景に資する農業に貢献できることを述べた。

また最後に、流通事業者のあり方、流通事業者による流通システムだけでは実現できないこととその課題を整理し、今後の社会のあり方を展望としてまとめた。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note：Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1 copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

論文要旨

THESIS SUMMARY

系・コース： Department of, Graduate major in	土木・環境工学 都市・環境学	系 コース	申請学位(専攻分野)： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	(工学)
学生氏名： Student's Name	渡邊春菜		審査員主査： Chief Examiner	真田純子	

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

Current agricultural policies and distribution systems assume mass production and consumption and have been identified as factors causing rural decline and depopulation. This thesis centers on Alternative Food Networks (AFNs), which have emerged as a response to mass production and consumption. The study specifically investigated extensive intermediate AFNs that bridge urban and rural areas. The aim was to elucidate the structure of AFNs and societal conditions that support their role in addressing rural decline and depopulation.

Chapter 1 reviewed previous studies conducted in Western country contexts to identify the methods of case collection and analysis used in this thesis. Chapter 2 analyzed the economic conditions and the network structure of each AFN type to provide the overview of AFNs in Japan. The chapter also developed methods for classifying extensive intermediate AFNs. Chapter 3 compared three extensive intermediate AFNs from environmental and landscape perspectives. Chapter 4 focused on Sakanotochu Co., Ltd., an AFN developing a distribution system for sustainable agricultural products. The chapter elaborated on how the company's founder developed the philosophy of "Farming for the Next 100 Years" and how this philosophy is translated into their practices. Chapter 5 analyzed the characteristics of partner producers of Sakanotochu, highlighting the contribution of these producers to the sustainability of rural areas. Chapter 6 analyzed Sakanotochu's approaches to changing consumers behavior and awareness.

Chapter 7 indicated, based on the previous discussions, how distributors can facilitate changes in consumer behavior through their service. This study demonstrated the potential of extensive intermediate AFNs to enhance environmental and landscape sustainability in rural areas while achieving economic sustainability.

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note: Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).